

何等の印象も與へないのは當然の事である、況してや修身を講義する自分に道德的信念が堅固でなく、何うして生徒の心を動かす事が出来やう、此の點からしても感情の教育と云ふ事は、最も必要である、教育は單に知識のみを與へるのが其の目的ではなく、一面に於ては感情を清くし人をしめて暖かき心を懷かせるのが、其の貴む可き働きである。

▲宗教の必要 最後に私は現代の人に宗教心の無いといふ事が、斯かる危険な破壊思想に陥り易い一の原因であると思ふ故に敢て基督教とのみ云はなくても、私は現代の青年に是非宗教を勧めたい而うして宗教の力に依つて、斯かる危険な思想を撲滅したいと思つて居る。

## 西洋の小兒と日本の小兒

高島平三郎氏談

日本の家庭と外國の家庭との小兒の取扱ひ方の相

違は家庭の成立の違ひに基く、即ち其國、其の國民性の如何に由るのであるから利害得失を論ずる範圍が廣くなる。差し當り西洋と東洋の最も著しい相違點を挙げれば大體に於て西洋には一體の社會組織が個人主義を標準とするから家庭にも亦個人主義が行亘つて居る。

それであるから親が子に對する態度は東洋人の目には殘酷であると思はれるほど獨立させてある。第一に我國では生れた時から母の懷に抱かれて寝るが西洋では特別な場合は知らず平常は湯たんばなどをに入れてやつて別の寐床へ寐させる。成長後にも添寝をすることなどはなく幾等泣いても乳とか食物とかを與へた後は一定の時間がくれば必ずベットのの中へ入れる此點は日本人より見れば殘酷に思はれるがやがて獨立的にすべての事を自分でやる習慣がつく基となる。も少し成長した後は小兒の玩具箱なども皆鍵があつて小兒が十歳位になれば皆ポケットの中に鍵を持つて居て人に手をつけさせぬ又事實手のつけられぬやうになつてゐる。

かくの如くにすべての家庭組織、社會設備が皆自分のことは自分でしなくてはならぬやうになつてをる。然るに日本では全く反對であつて殊に老人の居る家では非常に子の愛に溺れあれやこれやと世話を焼いて少し泣けばすぐ乳をやるとか機嫌をとるとかして終には小兒が泣けば何でも興へる習慣がつき小兒の時から人を頼みに生活するやうになる。

又稍成長した後でも自分で自分の事を仕末し又自分の所有の權利を認めて互に人の所有を尊敬する念が薄く親子兄弟の間が互に物を共有する様になる點は感情の美しさが見える様であるが弊に走れば所有の觀念が明かになく自他の區別がぼんやりして自信自據の精神を鈍くする基となる。日本の政治家でも學者でも殊に實業家など皆夫々資縁する所あり門閥學閥の力に由ること多く眞に自己の力に信賴することの少いのは全く小兒の時の家庭教育に已に芽ざしてをるのである。然し乍ら日本のかういふ風を今急に改めて西洋風にするには有ゆる組織から更へなくてはならぬ

故家庭教育のみ勵行することは難い。たゞ自分が家庭に望むのは此點が日本の家庭の短所であり長所でもあることを忘れず感情と理智の調和を謀られたき事である。

東洋と西洋との家庭に於ける今一つの相違は自分に對する人格的觀念の相違である。西洋人は個人主義の立場に立てば我子と雖も一個人として生れし上は矢張一個の人格として之を尊敬する念が比較的多いやうに思はれる。勿論西洋と雖も中流以下の社會では論外のもの多き故一概に言ふことはできまいが主として話の目あてとする點は英國の中等社會に就ての話であるが概して子供を大切な一人格として取扱ふ所は吾人の學ぶべき點が多からうと思ふ。

日本は小兒の樂園なりと外國人は言ふ、大切に小兒を可愛がるといふのだ。自分も日本人が小兒を愛することを認めるが其の愛し方にさながら犬と猫とかいふベツタア、アニマルの意味での愛し方が多いやうに思ふ。殊に下等社會のものに至つてはかういふ傾向が甚だしい、例へば馬鹿野郎と

稱する詞を以て小兒の愛を表出してゐるものを認めたい。父でも母でも機嫌の好い時に馬鹿野郎と言つて小兒をあやす。此れなどは非常に注意すべきことで小兒の半意識の場合に於ける被暗示性は非常に強いから斯ういふ詞を絶えず聞けば何時の間にか深く意識の根底に残つて意識が解る頃には自分ば馬鹿であるといふことが何日となしに堅い信念のやうになつて逆も偉いものになれぬといふ考を持つてしまふ。

勿論中以上の家庭ではまさか斯ういふことを言ふものは無からうがこれと同様の結果を來すべき小兒の取扱を爲せるものが多い。殊に教育に注意してゐるものが不知不識此種の弊に落ちるものも少なくない。例へばお客の前で我子の欠點を擧げて話すことは親にとつては謙遜の意かも知れぬが小兒の爲めには非常に悪しき暗示を與へるものである。或は又小兒を教訓してもそれを守らぬ場合に教へても覺えぬ場合に貴様のやうな奴は何の役に立たぬと罵つて小兒を耻かしめるやうな詞を用ふるものが多い。此等は實に兒童の人格を無視すること

の甚だしいものでこれが爲めに幾多の子弟が害されたりか解らぬ程である。然らんに小兒の人格を尊重せんためにはただ譽めれば好いのであるが、猥りに譽るのは決して善きことではない、日本では互の家庭の交際に小兒を物品の如くに賞讃することが多い、これが今日世に働けるものゝ種々の悪質を養成する基となつてゐる。譬へば小兒が綺麗な着物を着てゐるのを見て好い坊ちゃんだと譽める此れがやがて小兒をして着物さへ美しくすれば人は世に賞讃されるものであるといふ考を抱かしてしまふ第一歩であつて今日の所謂天ぷら紳士の玉子はこゝに胚胎するのである。

此點に就て自分は嘗て大に感じたことがある。鹿兒島で講話をした時には是等の主意を話すと聴講者の一人が自分の宿所に訪ねてきて言ふには「私は當地にゐる或英國の宣教師を訪ねて先生の講話の通りの方に逢つたことがある。其宣教師の家を訪ねた時母親が一人の可愛らしい女の子を携れて出てきたから私は日本流に可愛い子だと譽めた

ところが母親は様子をかへて奥に伴れて入つた。再び出てきて言ふには「あなたはなせ理由なしに小兒を譽めるのか何もせぬのに猥りに譽めると子供は稱讚を輕じ虚榮心を養ふやうになつて教育上非常に害があるから再び斯様なことを言つては困ると言つた」と其聽講者は話した。

日本の婦人にこれだけの注意を以て小兒を育てるものが果して幾人あるであらうか。此ことを考へれば我國が前途に一等國として列強と對抗するのは中々遠大な事であると思れる。然ば如何にしたならば適當な處置を執ることができやうか、それには種々なる注意が必要であるけれど就中小兒自らの働きに由つてできた業績を重じてたとへ些細な事と雖小兒が自分の考へと力とでしたことは大に賞讃して其勞を認めてやるやうにするが好からう。着物の美しきは子兒の力ではないのにこれを譽めるのは害あつて益なきこと故例へば一人で着物を着たといふやうな場合には賞讃してやるが好い。自分の爲すべきことを當然爲した時非常に親が喜んでやつて自己を尊重するやうに導くのが

人格を尊重し人格の發現を認めてやる根本主義である。此外に比較すれば東洋と西洋との相違は色々あるけれども有ゆる違ひと特質とは此の二つが根底をなすやうに思はれる。世の父母は是等の點に注意して家庭教育に心を用ひたならば中を得るに近いであらうと思ふ。(完)

### 家庭の改善

精華學校長

寺田勇吉氏談

今更改めて云ふまでもなく、日露戦争以後、我々日本人の責任は一層重大になつたのである、我々は此の戦争の結果として世界の一等國民と云ふ資格を得た。なる程露國に打ち勝つて、俄に一等國と云ふ名稱を冠せられるの名譽を得た。得たには違はないが、悲哉、戦争以外の事に就ては未だ歐米の一等國と肩を比する事が出来ないののである。乃ち我々の體格と云ひ、品性と云ひ、氣力と云ひ、就中富の程度に於ては到底英、佛、獨等の